

GPT監査テーマ： 監査人の業務負荷低減に向けたテーマ監査の支援の依頼

【**プロンプト**（生成AIへの入力内容： Written by Tomonori Tomura）】
「あなたはプロの監査指導者です。ビジネスと人権について、社会監査の観点から、日本で日本の上場企業の監査人がチェックすべき監査対象事項を10個挙げて、それら10個の監査対象事項を監査すべき理由を出力文の全体で700文字以内でまとめて下さい。」

【**アウトプット**（生成AIからの出力内容 **Written by ChatGPT-4o**）】
ビジネスと人権に関する日本の上場企業における監査対象事項とその理由

- 1. 人権方針の策定と公開**： 企業が国際基準に基づいた人権方針を持ち、それを公開しているかを確認。これは基本的な透明性を確保し、社会的信頼を得るために重要です。
- 2. サプライチェーンの透明性**： サプライヤーが強制労働や児童労働を行っていないことをチェック。これは持続可能な調達とリスク管理に直結します。
- 3. 労働環境の安全性**： 工場や事業所での安全基準が守られているかを評価。従業員の安全と幸福を確保するのは企業の社会的責任です。
- 4. 従業員の多様性と包摂性**： 性別、国籍、年齢に基づく差別の防止を確認。多様性の推進はイノベーションと企業価値の向上に繋がります。
- 5. ハラスメント防止対策**： 職場でのハラスメント防止体制が適切に整備されているかを確認。従業員のモラルと効率性を守るために重要です。
- 6. 紛争鉱物の使用管理**： 供給元での人権侵害がないことを確認。国際規範の遵守により企業リスクを軽減します。
- 7. 取締役会のガバナンス体制**： 人権問題への対応が経営レベルで議論されているかを評価。経営判断に反映させる必要があります。
- 8. 通報窓口の設置と運用**： 内部告発制度の有効性をチェック。人権侵害を早期に発見し対処するための手段です。
- 9. 地域社会との関係**： 事業活動が地元住民の権利を侵害していないかを確認。地域との良好な関係は長期的な事業運営に不可欠です。
- 10. 環境への影響評価**： 事業活動が環境を破壊しないよう配慮しているかを確認。環境破壊は住民の健康や生活権を侵害する恐れがあります。

理由これらの監査対象事項は、企業が国際的な人権基準を遵守し、持続可能な成長を目指すために不可欠です。また、上場企業にとっては、投資家や消費者からの信頼を維持するための責任としても重要な要素です。 **（※読みやすく色付けしたのは戸村です）**

【**所長のGPT監査ノート**（Written by Tomonori Tomura）】
「6の紛争鉱物関連のチェックは、米国のドッドフランク法の国際的な影響を加味して生成AIが反映したものかもしれませんが、人権救済の基礎でもありグリーンバンスメカニズム（苦情処理メカニズム）として注目されている通報窓口についても盛り込まれ、全般的に「ビジネスと人権」やESGやDEIなどを意識させるバランス感のある社会監査テーマのピックアップとなっているように見受けられる。監査人の業務負荷低減に際し、根拠をもって監査テーマを選定する際に、ある程度は生成AIを活用できるものとも思料される。」

